

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

1

6

1

2

1

2

2

11

9

2

合計 30

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホーム とうごう苑
訪問調査日	平成 19年 9月 28日
評価確定日	平成 19年 11月 29日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホーム とうごう苑
所在地	〒895-1106 鹿児島県薩摩川内市東郷町斧淵2636番地1 (電話) 0996-21-6551
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成 19年 9月 28日

【情報提供票より】(平成19年5月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 11月 12日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り 階建ての 階 ~ 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	280 円
	夕食	300 円	おやつ	83 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 68 歳	最高 103 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とうごう苑診療所、医療法人松尾医院、社会福祉法人恩賜財団法人済生会川内病院、薩摩郡医師会病院、医療法人瀬口歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東郷温泉の近くにある自然に囲まれたこのホームは、木のぬくもりが感じられるゆったりとしたつくりである。永年地域医療に携わってきた代表者が、利用者一人ひとりと馴染みの関係にあり、健康面、生活面で安心できる環境づくりに取り組んでいる。地域のボランティアと家族会との交流会を開催したり、また、社会福祉協議会、市の担当者との協働など、家族、職員、そして地域で利用者の暮らしを支えている。花見、夏祭り、忘年会など、とうごう苑の四季の行事や温泉での入浴など職員の心のこもった支援が印象的である。「明るい笑顔で、心のこもったふれあいと、その人らしさを大切にします」の理念に基いたサービスを目指している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価については職員に報告され、プライバシーへの配慮やスタッフ間の考え方の統一などサービスの質の向上について話し合いをしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが評価の意義や目的を理解し、サービスについて自己反省を行い、職員会議で意見をまとめて、事業所の自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、地域の民生委員、老人クラブ、住民の代表や市の担当者、利用者家族の代表、職員で構成され2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や行事について報告され、意見交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会や相談、苦情受付窓口、第三者委員会も設置されており、意見を表せる機会をつくっている。相談しがたい時は面会簿に記入するなど工夫している。ターミナルケアについても家族にアンケートをとるなど、家族の意見を聞きながら事業所としての方針について検討中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	民生委員の協力をいただきながら月1回の地域のいきいきサロンに参加している。地域のおしゃべりボランティアや中高生のボランティアを受け入れたり、家族会とボランティアとの交流会も行われている。とうごう苑の夏祭りに利用者と職員が参加して、地域の人といっしょに楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で意見を出し合い「明るい笑顔で心のこもったふれあいとその人らしさを大切にします」という理念をつくりあげている。地域の方とのふれあいを大切に支援している。		地域の方とのふれあいを大切にしていることも理念の中に明文化することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の引継ぎの際に全員で理念を唱和し、利用者一人ひとりの気持ちを大切に日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員の協力をいただきながら月1回の地域のいきいきサロンに参加している。地域のおしゃべりボランティアや中高生のボランティアを受け入れたり、家族会とボランティアとの交流会も行われている。とうごう苑の夏祭りに利用者と職員が参加して、地域の人といっしょに楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが評価の意義や目的を理解し、サービスについて自己反省を行い、職員会議で意見をまとめて、事業所の自己評価に取り組んでいる。外部評価については職員に報告され、スタッフ間の考え方の統一など支援の質の向上について話し合いをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の民生委員、老人クラブ、住民の代表や市の担当者、利用者家族の代表、職員で構成され2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や行事について報告され、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の関係者との連携をとり、介護保険、成年後見人、身体障害者制度などについて相談している。家族会で、利用者が利用できる福祉サービス(お出かけ券、入浴券)について助言してもらうなど市との協働もできている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時や電話で報告している。モニタリング表や行事写真、金銭出納帳のコピーなどは毎月の苑だよりと同封している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や相談、苦情受付窓口、第三者委員会も設置されており、意見を表せる機会をつくっている。相談しづらい時は面会簿に記入するなど工夫している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員の異動はない。職員が代わる時は引継ぎを十分に行い、馴染みの職員を交えて関係つくりにも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の質の向上のために、資格取得や段階に応じて研修への参加を積極的に勧めている。法人内の事例研修にも参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の「認知症介護を考える研修会」へ参加している。出水、薩摩川内市のグループホーム間の交流の中で管理者、職員間のネットワークができつつある。		管理者だけでなく職員も、同業者との交流会に参加して、事例検討など情報交換に努め、地域全体でのサービスの質の向上への取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は相談の時点で利用者宅を訪問したり、利用者、家族が利用前にホームで過ごすなど徐々に馴染めるように工夫している。利用されてからは家族の面会や電話連絡などの協力をもらい、本人が安心して生活ができるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことを教えていただいたり、思いを共感し、共に支えあう関係作りにつとめている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの行動、言葉や表情から利用者の思いや希望の把握に努めている。日々、本人や家族からの情報収集をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や職員の意見を取り入れて、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な介護計画の見直しを行っている。毎月家族にモニタリング表を送付して、本人、家族の意見を聞き、月1回ケア会議で計画の点検を行い、状態の変化に応じても随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、外出、通院、入院時の支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じてかかりつけ医との連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。協力医が週1回往診に来られる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は本人や家族の意向を確認して、かかりつけ医や職員と情報交換しながら対応している。ターミナルケアについては家族にアンケートを行い、家族会で話し合いをしている。事業所としての方針は現在検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常の声かけや支援の中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。職員会議の中で日々のケアを振り返り、利用者のプライバシーについて話し合いをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを献立に取り入れながら、利用者の出来ることを大切にして一緒に食事の準備をしている。食事の形態や食べるスピードは異なっても利用者と職員が会話をしながら食事を楽しんでいる。介助の必要な方は職員が隣でさりげなくサポートしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回とおおまかな入浴日は決めているが、一人ひとりの習慣や希望に応じて入浴ができるように支援している。3ヶ月に1回ほど近くの温泉で入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗い、雑巾縫い、草取りなど得意分野を発揮してもらえるよう支援している。梅干づくりや庭に捨てた種から「ど根性すいか」を育てるなど、職員と利用者が日々の生活を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族やボランティアの協力をもらい、月1回は苑外の行事を計画したり、本人の希望に応じて(車椅子の方も)外出する機会をつくっている。居室からも戸外に出られ、花の水かけや庭の散歩をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室に鍵をかけていない。利用者は居室から庭に自由に出入りできる。職員は利用者一人ひとりの行動を見守りながら、さりげなく声かけて安全に気を配り、自由な暮らしを支えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、利用者と一緒に避難訓練を行い、避難経路、連絡体制などの確認をしている。消防署や地域住民の協力体制もできている。台風や大雪の時は、食料、飲料水などの備蓄をしている。		月1回、避難訓練を行っているが、今後はさらに年1回の全ての関係者での避難訓練や、火災や台風だけでなく地震や水害などについての対策も検討課題である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分摂取量を記録している。定期的に栄養士のアドバイスをもらい、栄養のバランスにも配慮している。ミキサー食、きざみ食、とろみ剤の使用など一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりのある共同空間に自然な光が入り、温かい雰囲気である。中庭、坪庭、リビングの植物が季節を感じる。体調の悪い方はリビングの隣の和室で過ごすなど、利用者一人ひとりが思い思いに過ごしている。家族の方も長い時間居心地よく過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真、日用品などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。居室から庭に自由に入出りできる。		